

ニューソフィア

New Sophia

83号

[vol.22-3]

福岡歯科大学は「口腔医学」を推進しています



Featuring News

国際交流

ブリテイッシュシユロンビア大学(カナダ) / 上海交通大学(中国)
慶熙大学校(韓国) / 中国医科大学(中国)

Seasonal Topics

平成25年度事業報告および決算

Campus News

福岡歯科大学教育支援室設置 / 「福博の歴史と文化探訪」で茶道体験
福西会病院への訪問歯科診療 / 公開講座のご案内

People

松本光生名誉教授 春の叙勲受章
本田常務理事 日本ラグビーフットボール協会功労賞受賞
ヤングン歯科大学より客員研究員が来学
新任教員紹介
福岡歯科大学特待生
福岡歯科大学一般入学試験A日程特待生・同特待生継続者
福岡歯科大学AO入試奨励金継続支給者
福岡医療短期大学特別奨学生

Events

- ◆ 第6学年激励会
- ◆ 第17回学園体育祭
- ◆ 第12回サンシャインシティ運動会
- ◆ 同窓会オープンキャンパスを開催
- ◆ 平成26年度父兄後援会支部懇談会開催日程

From Alumni

同窓会だより

◆ Hill From Clinic

社会福祉法人若楠
療育医療センター 若楠療育園 歯科(佐賀県鳥栖市)
持山歯科医院(福岡市中央区)

◆ Students & Parents

学生 & 保護者様からのメッセージ

◆ Information

平成27年度入試日程 / オープンキャンパス



国際交流

ブリティッシュコロンビア大学歯学部



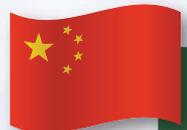
中嶋宏樹、古野紗友美、山本祐香、湯川綾美の6年生4名は、4月20日から5月4日までの2週間、カナダのバンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学はカナダのブリティッシュコロンビア州にある州立の研究総合大学であり、構内をバスが巡回するほどの広大な敷地の中で、約4万人の学部生と様々な国からの留学生が学んでいます。キャンパス内には付属病院、バンクーバーオリンピックで使用されたアイスホッケー会場、UBC人類学博物館、新渡戸稲造を顕彰して作られた日本庭園、バラ園等があり、バラ園から一望できる太平洋や山頂を雪で覆われた山々の景色は自然そのものでした。



毎朝バスで大学まで通い、7時30分から始まる先生や学生とのディスカッションや、8時から始まる授業に参加し、午後はクリニックで見学をさせてもらいました。授業ではただ聞くだけでなく、積極的に先生に質問したり、分からないことはその場で調べたりと、意欲的な姿勢に刺激を受けました。PBL (Problem Based Learning) では、臨床での症例を与えられ、その症例について小グループで話し合い、診断や治療法を学生自身が考え、それぞれの意見をディスカッションしていました。誰かの意見に賛同するだけでなく、1人ひとりがかかりと自分の意見を述べていたのを見て、私も自信を持つて自分の意見を言えるくらいしっかりと勉強しなければいけないと思いました。クリニックでは、学生は一人の患者さんを担当して治療し、分からない時は先生にアドバイスをもらっていることにとっても驚きました。治療はもちろんですが、患者さんとのコミュニケーションも上手くとっており、とても実践的でした。授業以外の朝食や昼食の時間には、先生と学生と一緒に食事をし、様々な悩み事を話し合う機会があり、何でも相談できる良い関係だと思いました。学生はともフレンドリーで、キャンパス内ですれ違うといつも笑顔で話しかけてくれたり、診療内容を丁寧に説明してくれました。他の大学や国から来ている留学生も一緒に食事をすることも多く、様々な考え方や価値観を知ることができました。

私達はこれから自分の将来について考え、決めていかなければなりません。今回の研修で得た多くの刺激や経験を活かし、自分の思い描く理想の歯科医師に一步でも近づけるように努力していきたいです。このような機会を与えて頂き、本当にありがとうございます。

湯川 綾美



上海交通大学口腔医学院

私たち今村彩香、磯本瑠美子、竹下祐香里、田中千愛、堤彩佳、矢野良佳、徳久美都子の6年生7名は、日高真純先生の引率のもと4月20日から27日まで上海交通大学への海外研修に参加させていただきました。

上海交通大学は100年以上の歴史を持つ中国でも有数の有名大学です。私たちはこの一週間で主に上海交通大学の附属病院である第九人民病院の見学をさせていただきました。病院見学は上海交通大学の学生さんと本学の学生とで混合のグループを作り、三班に分かれて行いました。病院見学で一番印象的だったのは、なんといっても患者数の多さです。第九人民病院には保存科、口腔外科、補綴科、予防科、矯正科、歯周科、総合歯科、インプラント科、粘膜科など多くの科があり、いずれの科も患者さんで溢れかえっていました。その中には、日本ではなかなか見ることのできないような珍しい症例の方や、見るからに重篤な状態の方がいらっしゃいました。上海の学生さんのお話によると、中国の過疎地域では金銭的な理由で病院に行けず、結局手遅れ状態で都会の病院に送られるようなケースも珍しくないそうです。そのため過疎地への派遣が昇進するための条件に組み込まれていたりと、国の支援があるのです。また、中国では人口に対して医師の数が少ないため、それでも解決するのは難しい問題であるとのことでした。

また、もうひとつ病院見学をしていて驚いたのは学生が非常に積極的に診療に携わっていたということです。第九人民病院



では学生専用のユニットが用意されており、学生が実際に患者さんを診断し、先生に確認をとって治療をしていました。その物怖じせずに堂々と患者さんに接している姿から、彼らの今までの努力であるとか経験からくる自信が見てとれました。私たちも将来同じ歯科医師になる身として見習うべき点が多々あると感じました。

張先生をはじめ、上海交通大学の学生さんには滞在中、観光や食事に連れて行ってもらったり、病院見学のサポートをしてもらったりと大変お世話になりました。9月に皆さんが福岡を訪れる際には、私たちがそうしてもらったように暖かく迎え入れようと思います。

今回の研修を通して、私たちは貴重な経験をし、同じ目標を持つ友人を得ることができました。このような機会を与えてくださった先生方、お世話になった全ての方に心から感謝しております。

徳久 美都子



慶熙大学校歯科大学

私たち、犬束憲史、角岡宏亮、河原ゆり、嘉村有佐子、岡信孝の6年生5名は4月27日から5月4日までの8日間、韓国のソウルにある慶熙大学校歯科大学への海外研修に参加させていただきました。

慶熙大学校は歯学部以外にも医学部、観光学部など多くの学部を有する私立総合大学です。朝の通学時には多くの学生でキャンパス内は賑わいます。またキャンパス内には大きな講堂をはじめ、博物館や図書館がそれぞれ3つあるなど大学の規模の大きさに驚きの毎日でした。慶熙大学校の歯学部は4年制大学を卒業後に入学するコースを採用しており、1学年の学生数は80名からなります。また韓国では歯学部に入學するには全国でもトップクラスにいなければならず、韓国国内では医学部よりも人気があるそうです。

私たちは毎日、一日かけて歯科病院内の診療見学や実習や講義などを受けて過ごしていました。診療見学では矯正治療で使用する3D撮影や、デジタル印象の体験などをさせていただきました。また慶熙大学校の歯科病院内では補綴科や口腔外科などの一般診療科に加え、学生のみで診療を行う学生診療科があり学生が1年間をかけて多くの症例を指導医のアドバイスのもと実際に治療を行っていました。同じ学生ですべて多くの患者さんの診察を行っているのには驚きとともに、良い刺激にもなりました。

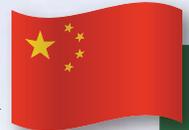
また慶熙大学校は世界的に統合診療を行っていることでも有名であり、歯科病院内では口腔内科という診療科があります。そこでは患者さんの主訴に対して西洋医学的な治療と並行し、鍼などの東洋医学



的なアプローチも行い、患者さんの疼痛緩和を行っていたことが最も印象的であり、最も興味を抱きました。

今回は初めて学生のみでの研修ということもあり始めは心配や不安などもありましたが、8日間共に過ごした福岡歯科大学の友人や、慶熙大学校の先生方、学生さんなど多くの支えがあり無事に研修を終えることができました。また8日間慶熙大学校の先生方をはじめ多くの学生さんが私たちを食事や観光に連れて行ってくださり、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。今回の研修を通して私たちは日本では得られない貴重な体験をさせていただきました。このような素晴らしい機会を与えてくださったことに感謝するとともに、今回の経験を活かしていきたいようにこれから一層頑張りたいと思います。本当にありがとうございます。

岡 信孝



中国医科大学口腔医学院

私たち大関博通、宮園祥爾、佐藤祐亮、松尾勝久、中原亜由美、林英佑の6年生6名は4月20日から8日間、保存科阿南教授、口腔外科橋本講師の引率のもと中国医科大学口腔医学院へ研修に参加させていただきました。

中国医科大学がある瀋陽は中国東北部に位置し、とても長い歴史を持つ大学です。また瀋陽は戦前、旧満州国に属し日本の統治下のもと大規模都市へ発展していき、そのため現在でも街中には戦前日本人が建設した建物が多く、とてもノスタルジックな雰囲気が流れています。また、大学では日本の歯学部へ留学経験のある先生が多数在籍しており、研修期間中も流暢な日本語で私たちに接していただきました。

私たちは8日間の研修期間のうち、3日間を附属病院で研修を行い、2日間附属病院と新キャンパスの見学を行いました。

附属病院の研修では、口腔外科、補綴科、保存科、歯周病科、小児歯科、矯正歯科の6つの科で研修させていただきました。研修は、発見や驚き、改めて気付かされたことが多くあり、毎日が新鮮で3日間では足りないほどでした。中でも私が強く印象に残ったのは口腔外科です。口腔外科では3件の手術を見学させていただきました。手術見学中に教授や執刀医の先生方から丁寧に分かりやすく解説していただき、時には楽しく会話しながら勉強させていただきました。

また今回の研修期間中、福岡歯科大学へ研修を希望する学生6名と交流することができました。彼らには忙しい中、多くの時間を割いて私たちの案内や世話をしていたり、とても感謝しています。夕食を一緒にとった時は、彼らの熱意や姿勢を強く感じる事ができ、同じ目標に進む仲間として強い感銘を受けました。今回の研修で多くの尊敬できる先生方や感銘できる友人と出会うことができました。

8日間という短い期間でしたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。この研修の合格が決まった時、両親から中国での環境や治安のことで心配されましたが、両親を説得してまでもこの研修に参加した甲斐がありました。中国での研修を無事に終えられたのも、中国医科大学の路医院長はじめ医局の先生方、コーディネーターにいただいた曲先生、そして友達になれた学生のおかげだと感じています。また同時にこのような研修の機会を提供してくださった福岡歯科大学の先生方、引率してくださった阿南先生と橋本先生にも心から感謝しています。

林 英佑



学園運営 平成25年度事業報告および決算

平成25年度(第42期) 事業報告の概要

1 口腔医学の学問体系の確立・育成について

口腔医学教育・口腔医療の確立・育成のフロントランナーとして、10年余の実践に努めてまいりました。健康長寿社会を支えるため、大学改革に取り組む本学の意図を社会に広めるとともに、学生・教職員の歯学・歯科に対する意識を高め、歯学・歯科に対するインセンティブの改革を期待して、4月から福岡歯科大学の学部・学科の名称を「口腔歯学部」「口腔歯学科」に変更しました。

2 教育の改善・充実等について

(1)今年度より新たに開始された「私立大学等改革総合支援事業」(文部科学省および日本私立学校振興共済事業団が共同実施)に、福岡歯科大学はタイプ1「大学教育の質転換」およびタイプ2「地域の発展を重層的に支える大学」の2つに選定され、1「大学」の向上のため組織的・体系的に大学改革を取り組む大学として、重点的に支援を受けました。

(2)大学においては、新たに教育実施要領を策定するうえ、学年制に移行し、きめ細かな指導体制を強化して全学生の学力向上を図りました。臨床実習については、患者型ロボットを用いた救急時対応医療科統合シミュレーション実習を実施し、口腔医学臨床実習を充実させたほか、CAD/CAM実習室の設置、移動型デジタル式汎用X線透視診断装置の導入、医療情報デジタル化システムを構築するなど教育環境の整備充実を図りました。

(3)大学院においては、カリキュラム・ポリシーの改訂、大学院活動ポートフォリオの整備、国内外への研修派遣制度の活用を推進し、教育研究の質向上を図りました。

(4)短大においては、歯科衛生学、3年次を対象とした規模歯科臨床の臨床体験を目的として、口腔医療センターにおける実習を開始。また保健福祉学科では、呼吸器の吸引技術や胃腸等の栄養管理の修得のため、サニテーション・サンシャインプラザ職員の非常勤講師と連携して、医療的ケア教育を行いました。

3 研究の活性化について

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に選定された3つの事業を中心として、先端的の研究を推進しました。

(1)先端科学センターでの研究「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御」は、5年間の研究成果を5月に研究成果報告書として取り纏めて文部科学省に提出したとともに、更なる発展を目指した研究拠点を形成するための準備を行いました。

(2)再生医学研究センターの「生体内環境を調べる硬組織再建システム」に関する研究については、5月に研究成果報告会、平成26年2月にシンポジウムを開催しました。

(3)老化制御研究センターの「老化の抑制と疾患の制御における環境ストレスとゲノムの応答」に関する研究については、9月に国際シンポジウムを開催するとともに、第86回日本生化学会での国際シンポジウムの中で広く社会に向けて情報を発信しました。

(4)学生への支援等について (1)大学では、教育的配慮のもと優秀な学生が下級生の学習支援等を行うチューター・アシスタント(SA)制度を導入し、教育効果を高めています。留級生に対しては、A制度の活用のほか、教員による土曜開講の特別授業を行い、学力の底上げを目指します。また、双方対向型授業支援システムを導入し、授業における教員指導の充実および学生理解度の向上を図るとともに、講義室に「録画用マルチメディア装置」・「画像電送装置」を整備して、学生の自己学習体制を充実させました。

(2)この他、方言教員が日々学生の指導・様々な相談に対応するとともに、オフィスアワーにおいても修学上の問題等について個別の面談や相談を実施しています。(3)短大では、小人数教育を通じて学習成果の獲得向上および課外学習を含めた学習行動の充実を図るため、「可動式テーブルとチェア」・「教育音響システム」・「電子黒板」等を整備しました。(4)全天候型のオムニコート3面を新設したほか、防災機能の強化のため図書閲覧室の書架等転倒防止工事を実施し、地域開放施設および安全安心な施設への改善を進めています。(5)学生募集については、指定校の見直し、効率的・効果的な高校訪問・進学相談会への積極的参加等により、平成26年度入学者数は、学部93名(前年比1.6倍の379名が志願競争倍率12ポイント増の23倍)、短大歯科衛生学103名(保健福祉学25名)となりました。

4 社会との連携貢献について

(1)健康長寿社会の構築および地域社会の活性化に資するため、9月に「福岡歯科大学福岡医療短期大学地域連携推進センター」を開設しました。また、「地域連携推進協議会」を設置し、地域・行政・関係団体との連携体制を整備し、事業推進を図っています。

(2)医療科総合病棟は、小児科および整形外科を増設し、医療科および整形外科を増設し、医療科および併せて25診療科体制とし、外来患者数は1日平均609.0人で前年度比6.6%増となりました。入院患者数は1日平均24.5人で8.1%減となり収入も微減となりました。26年度は目標50人とし改善に努めます。また、電子カルテに備え、全科フィルムレス化構想を策定し、医療用モニター端末の導入が完了。なお、院内施設改築計画については、病院将来構想検討委員会にて「中間まとめ」を取り纏め、新医療科総合病棟改築委員会を立ち上げ、検討を重ねています。

(3)口腔医療センターは開院3年目を迎え、歯学部生に臨床実習生を医や歯科衛生学部の臨床実習生を受入れを開始。また生涯研修等を開催し最新の医療情報を発信するなど、研修施設としての機能を充実させました。なお、年間患者総数は24,835人(前年比43.5%増)、1日平均患者数は92.3人となり、地域医療への貢献にも努めています。

(4)介護老人保健施設は、地域病院との連携や入所判定の短縮化を図り、入所者は前年度比で21%増となりましたが、通所は61%減となりました。なお、社会福祉法人学友会では、平成27年秋の開所に向け、地域福祉の充実、福祉人材の育成等を目的とした新特別養護老人ホーム設置計画を進めています。

(5)国際交流では、大学はブリテイッシュコロンビア大学歯学部、上海交通大學口腔医学部、慶熙大歯学部、歯学部、ヤンゴン歯科大学、中国医科大学口腔医学部と学生交流、学術交流を実施しました。また、欧米の大学との新たな交流協定締結に向け、交渉を進めています。短大は、歯科衛生学3年次生が姉妹校である東釜山大学を相互交流のため訪問しました。

(6)組織運営について (1)総合歯科医の育成に向けた教員組織の強化を部長会および教員組織検討委員会と協議し、また、教員人事課における客観的評価基準の導入を目指してプロジェクトチームによる検討を行っています。

(2)外部資金導入として、文部科学省から私立大学等施設整備費補助金、私立大学等研究設備整備費補助金、教育研究活性化設備整備費補助金、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に係る研究費補助金および大学改革推進補助金など約2億7千万円を受け入れました。また、科学研究費補助金として約1億1千万円を獲得しました。その他、税制上の優遇措置(税額控除対象法人)を周知し、寄附金の受け入れに努めています。

5 学校法人福岡学園の事業報告および決算が、5月22日開催の評議員会、理事会で承認されました。その概要は次のとおりです。

平成25年度(第42期) 決算の概要

1 資金収支計算書

平成25年度の資金収支計算書、消費費収支計算書、貸借対照表及び財産目録の概要は次のとおりです。

収入の部では、学生生徒等納付金収入30億1,144万円、補助金収入8億9,988万円、事業収入20億9,260万円など、収入合計は17億3,311,199万円となり、これに前年度繰越支戻金6億5,230万円を加えた収入の部合計は17億9,849,977万円となりました。

一方、支出の部では、人件費支出36億2,683万円、設備関係費支出14億2,869万円、施設関係費支出7,806万円、設備関係費支出5億5,660万円など支出合計は17億2,329,494万円となり、収入の部合計からこれを差し引いた年度繰越支戻金は7億3,055,555万円となりました。

また、人件費比率は49.5%、帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額は13億7,574万円、帰属収支差率比率は19.3%となり、財務の健全性を維持しています。

3 貸借対照表 資産の部合計は、第3号基本金(教育研究基金引当資産)の組入れのための債券購入等により前年度比11億5,655,008万円増の59億9,590,000円となりました。

負債の部合計は、退職給付引当金等前年度比2億1,924万円減の24億2,889万円となりました。基本金の部合計は、第1号基本金への組入れ4億1,284万円、第3号基本金・教育研究基金引当資産への組入れ17億円等により前年度比21億2,582万円増の56億3,142万円となりました。

消費費収支差額の部合計は、前年度比7億5,008万円減の8億4,483,364万円と減価償却引当特定資産等の運用財産14億7,226,266万円の合計で59億3,590,000円となりました。負債の部合計は24億2,889万円、資産の部合計、負債の部合計額とも貸借対照表の合計額と一致しています。

2 消費費収支計算書

消費費収支の部では、帰属収入合計は71億1,539万円となり、基本金組入額合計21億2,642万円を差し引いた消費費収入の部合計は49億8,897万円となりました。

一方、消費費支出の部では、消費費支出の部合計は57億3,965万円となり、消費費収入の部合計9億6,506,068万円を差し引いた年度消費費支出超過額は7億5,068,200円となりました。これを前年度繰越消費費収入超過額15億5,566万円と基本金取崩額60万円を加えた額から差し引いた翌年度繰越消費費収入超過額は8億5,587万円となりました。

また、人件費比率は49.5%、帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額は13億7,574万円、帰属収支差率比率は19.3%となり、財務の健全性を維持しています。

3 貸借対照表 資産の部合計は、第3号基本金(教育研究基金引当資産)の組入れのための債券購入等により前年度比11億5,655,008万円増の59億9,590,000円となりました。

負債の部合計は、退職給付引当金等前年度比2億1,924万円減の24億2,889万円となりました。基本金の部合計は、第1号基本金への組入れ4億1,284万円、第3号基本金・教育研究基金引当資産への組入れ17億円等により前年度比21億2,582万円増の56億3,142万円となりました。

消費費収支差額の部合計は、前年度比7億5,008万円減の8億4,483,364万円と減価償却引当特定資産等の運用財産14億7,226,266万円の合計で59億3,590,000円となりました。負債の部合計は24億2,889万円、資産の部合計、負債の部合計額とも貸借対照表の合計額と一致しています。

(1)施設関係支出は、病院2階第一号手術室改修工事及びびこーと移設工事等により、概ね予算額と同額の7,806万円となりました。

3 設備関係支出は、施設整備費補助事業等の機器備品の購入により、概ね予算額と同額の5億5,660万円となりました。

また、人件費比率は49.5%、帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額は13億7,574万円、帰属収支差率比率は19.3%となり、財務の健全性を維持しています。

3 貸借対照表 資産の部合計は、第3号基本金(教育研究基金引当資産)の組入れのための債券購入等により前年度比11億5,655,008万円増の59億9,590,000円となりました。

負債の部合計は、退職給付引当金等前年度比2億1,924万円減の24億2,889万円となりました。基本金の部合計は、第1号基本金への組入れ4億1,284万円、第3号基本金・教育研究基金引当資産への組入れ17億円等により前年度比21億2,582万円増の56億3,142万円となりました。

消費費収支差額の部合計は、前年度比7億5,008万円減の8億4,483,364万円と減価償却引当特定資産等の運用財産14億7,226,266万円の合計で59億3,590,000円となりました。負債の部合計は24億2,889万円、資産の部合計、負債の部合計額とも貸借対照表の合計額と一致しています。

(2)施設関係支出は、病院2階第一号手術室改修工事及びびこーと移設工事等により、概ね予算額と同額の7,806万円となりました。

(3)設備関係支出は、病院2階第一号手術室改修工事及びびこーと移設工事等により、概ね予算額と同額の7,806万円となりました。

平成25年度(第42期)資金収支決算総括表 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位:円)

収入の部					
科目	予算		決算		差異
	金額	構成比%	金額	構成比%	
学生生徒等納付金収入	3,000,085,000	18.71	3,001,143,500	17.34	△ 1,058,500
手数料収入	20,017,000	0.12	28,952,840	0.17	△ 8,935,840
寄附金収入	46,421,000	0.29	64,251,619	0.37	△ 17,830,619
補助金収入	357,318,000	2.23	809,881,750	4.68	△ 452,563,750
国庫補助金収入	357,318,000	—	804,786,000	—	△ 447,468,000
地方公共団体補助金収入	0	—	4,895,750	—	△ 4,895,750
その他補助金収入	0	—	200,000	—	△ 200,000
資産運用収入	801,000,000	4.99	904,587,940	5.23	△ 103,587,940
資産売却収入	1,706,110,000	10.64	1,219,790,000	7.05	486,320,000
事業収入	2,142,347,000	13.36	2,092,602,622	12.09	49,744,378
雑収入	225,110,000	1.40	206,877,823	1.20	18,232,177
前受金収入	385,050,000	2.40	440,341,700	2.54	△ 55,291,700
その他の収入	8,274,432,000	51.59	9,676,319,942	55.90	△ 1,401,887,942
資金収支調整勘定	△ 919,088,000	△ 5.73	△ 1,133,562,224	△ 6.57	214,474,224
(小計)	(16,038,802,000)	(100.00)	(17,311,187,512)	(100.00)	(△ 1,272,385,512)
前年度繰越支払資金	652,306,000		652,305,723		277
収入の部合計	16,691,108,000		17,963,493,235		△ 1,272,385,235

支出の部					
科目	予算		決算		差異
	金額	構成比%	金額	構成比%	
人件費支出	3,648,058,000	22.68	3,626,827,807	21.05	21,230,193
教育研究経費支出	1,592,851,000	9.90	1,428,692,604	8.29	164,158,396
管理経費支出	306,397,000	1.91	226,962,147	1.32	79,434,853
施設関係支出	25,985,000	0.16	78,056,000	0.45	△ 52,071,000
設備関係支出	556,390,000	3.46	556,596,193	3.23	△ 206,193
資産運用支出	9,593,870,000	59.65	11,260,554,000	65.34	△ 1,666,684,000
その他の支出	454,587,000	2.83	470,194,226	2.73	△ 15,607,226
[予備費]	(0)	1.87			300,000,000
資金支出調整勘定	△ 395,160,000	△ 2.46	△ 414,938,749	△ 2.41	19,778,749
(小計)	(16,082,978,000)	(100.00)	(17,232,944,228)	(100.00)	(△ 1,149,966,228)
次年度繰越支払資金	608,130,000		730,549,007		△ 122,419,007
支出の部合計	16,691,108,000		17,963,493,235		△ 1,272,385,235

平成25年度(第42期)消費収支決算総括表 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位:円)

消費収入の部					
科目	予算		決算		差異
	金額	構成比%	金額	構成比%	
学生生徒等納付金	3,000,085,000	45.44	3,001,143,500	42.18	△ 1,058,500
手数料	20,017,000	0.30	28,952,840	0.41	△ 8,935,840
寄附金	56,421,000	0.85	71,161,975	1.00	△ 14,740,975
補助金	357,318,000	5.41	809,881,750	11.38	△ 452,563,750
国庫補助金	357,318,000	—	804,786,000	—	△ 447,468,000
地方公共団体補助金	0	—	4,895,750	—	△ 4,895,750
その他補助金	0	—	200,000	—	△ 200,000
資産運用収入	801,000,000	12.13	904,587,940	12.71	△ 103,587,940
事業収入	2,142,347,000	32.45	2,092,602,622	29.41	49,744,378
雑収入	225,110,000	3.42	207,066,469	2.91	18,043,531
(帰属収入合計)	(6,602,298,000)	(100.00)	(7,115,397,096)	(100.00)	(△ 513,099,096)
基本金組入額合計	△ 2,242,588,000		△ 2,126,423,756		△ 116,164,244
消費収入の部合計	4,359,710,000		4,988,973,340		△ 629,263,340

消費支出の部					
科目	予算		決算		差異
	金額	構成比%	金額	構成比%	
人件費	3,559,208,000	56.55	3,518,941,431	61.32	40,266,569
教育研究経費	2,095,518,000	33.30	1,930,231,556	33.63	165,286,444
管理経費	338,863,000	5.38	256,788,236	4.47	82,074,764
資産処分差額	0	0.00	33,456,982	0.58	△ 33,456,982
徴収不能引当金繰入額	0	0.00	158,318	0.00	△ 158,318
徴収不能額	0	0.00	78,246	0.00	△ 78,246
[予備費]	(0)	4.77			300,000,000
(消費支出の部合計)	(6,293,589,000)	(100.00)	(5,739,654,769)	(100.00)	(553,934,231)
当年度消費支出超過額	1,933,879,000		750,681,429		
前年度繰越消費収入超過額	1,555,663,000		1,555,662,710		
基本金取崩額	0		603,000		
翌年度繰越消費収入超過額	0		805,584,281		
翌年度繰越消費支出超過額	378,216,000		0		

貸借対照表 (平成26年3月31日)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	(58,110,971,777)	(57,267,346,797)	(843,624,980)
有形固定資産	(11,355,174,476)	(11,273,345,286)	(81,829,190)
土地	2,853,955,052	2,853,955,052	0
建物	4,918,709,127	5,120,866,032	△ 202,156,905
構築物	201,633,774	172,541,861	29,091,913
教育研究用機器備品	1,722,685,069	1,493,113,601	229,571,468
その他の機器備品	32,977,376	33,364,786	△ 387,410
図書	1,623,078,622	1,596,976,036	26,102,586
車輛	2,135,456	2,527,918	△ 392,462
その他の固定資産	(46,755,797,301)	(45,994,001,511)	(761,795,790)
電話加入権	1,705,991	1,705,991	0
敷金保証金	59,138,900	59,138,900	0
教育研究用ソフトウェア	2,236,500	4,254,600	△ 2,018,100
その他のソフトウェア	4,282,110	7,052,220	△ 2,770,110
有価証券	507,254,950	1,454,250,950	△ 946,996,000
退職給与引当特定資産	1,663,500,000	1,663,500,000	0
減価償却引当特定資産	8,000,000,000	8,000,000,000	0
施設設備充実引当特定資産	3,000,000,000	3,000,000,000	0
第2号基本金引当資産	9,622,008,850	9,622,008,850	0
第3号基本金引当資産	23,475,670,000	21,762,090,000	1,713,580,000
第4号基本金引当資産	420,000,000	420,000,000	0
流動資産	(1,424,923,661)	(1,112,043,124)	(312,880,537)
現金預金	730,549,007	652,305,723	78,243,284
未収入金	638,157,700	401,926,951	236,230,749
貯蔵品	2,919,531	3,189,985	△ 270,454
前払金	53,030,318	54,620,465	△ 1,590,147
立替金	267,105	0	267,105
資産の部合計	59,535,895,438	58,379,389,921	1,156,505,517

負債の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	(1,428,038,808)	(1,557,038,120)	(△ 128,999,312)
退職給与引当金	1,410,042,356	1,517,928,732	△ 107,886,376
長期未払金	8,656,452	17,898,300	△ 9,241,848
長期預り金	0	2,531,088	△ 2,531,088
長期前受金	9,340,000	18,680,000	△ 9,340,000
流動負債	(1,000,848,408)	(1,091,085,906)	(△ 90,237,498)
未払金	391,562,241	438,479,237	△ 46,916,996
前受金	449,681,700	497,107,800	△ 47,426,100
預り金	159,604,467	155,498,869	4,105,598
負債の部合計	2,428,887,216	2,648,124,026	△ 219,236,810

基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	22,783,745,091	22,371,504,335	412,240,756
第2号基本金	9,622,008,850	9,622,008,850	0
第3号基本金	23,475,670,000	21,762,090,000	1,713,580,000
第4号基本金	420,000,000	420,000,000	0
基本金の部合計	56,301,423,941	54,175,603,185	2,125,820,756

消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費収入超過額	805,584,281	1,555,662,710	△ 750,078,429
消費収支差額の部合計	805,584,281	1,555,662,710	△ 750,078,429

科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	59,535,895,438	58,379,389,921	1,156,505,517

財産目録総括表 (平成26年3月31日)

(単位:円)

資産の部		金額
I. 基本財産		44,833,638,649
固定資産		44,833,638,649
(1) 有形固定資産		11,266,446,298
(2) その他の固定資産		33,567,192,351
II. 運用財産		14,702,256,789
1. 固定資産		13,277,333,128
(1) 有形固定資産		88,728,178
(2) その他の固定資産		13,188,604,950
2. 流動資産		1,424,923,661
資産の部合計		59,535,895,438

負債の部		金額
I. 固定負債		1,428,038,808
退職給与引当金		1,410,042,356
長期未払金		8,656,452
長期前受金		9,340,000
II. 流動負債		1,000,848,408
未払金		391,562,241
前受金		449,681,700
預り金		159,604,467
負債の部合計		2,428,887,216
差引正味財産		57,107,008,222
負債の部合計及び差引正味財産合計		59,535,895,438

※資金収支計算書：当該会計年度の諸活動に対するすべての資金の収支を明らかにするもの
 ※消費収支計算書：民間企業の損益計算書に該当するもので、財政の健全化を測定する尺度となるもの
 ※貸借対照表：当該会計年度末の資産及び負債・基本金・消費収支差額の状況を表すもの
 ※帰属収入：学生生徒等納付金、寄附金、補助金その他の学校法人の負債とならない収入

※消費支出：人件費、教育研究経費、管理経費などの学校法人の経常的支出
 ※人件費比率：(人件費 / 帰属収入) × 100
 ※帰属収支差額比率：[(帰属収入 - 消費支出) / 帰属収入] × 100

福岡歯科大学教育支援室設置

5月22日開催の理事会において、福岡歯科大学教育支援室の設置が承認されました。同支援室は、大学長が室長を兼務し、専任教員および事務職員が配置され、口腔医学教育の推進並びに本学学生の学士力向上を図るため、学士課程教育に関する情報収集、分析並びに中長期的な企画立案、改善等を担当します。

教養科目「福博の歴史と文化探訪」で茶道体験

5月9日、基礎教養科目「福博の歴史と文化探訪」の授業において、裏千家茶道教授の志村宗恭先生をお招きして茶道の体験授業が行われました。受講生は、まず茶についての講義を通じて福岡・博多の歴史や文化について学び、続いて志村先生のご指導のもと、本学2期卒業生伊藤恒一先生ご寄贈の茶碗を用いて実際にお茶を点てる体験をしました。



福西会病院への訪問歯科診療（地域連携センター）

5月19日より、高齢者歯科学分野（内藤 徹教授）は、福岡市早良区の福西会病院への訪問診療と医療スタッフへの研修を開始し、歯科医院への受診が困難な入院患者に対し口腔ケアや粘膜疾患への対応の指導などを実施しました。本取り組みは、地域連携センターが中心となり、地域医療機関との連携と地域社会の活性化を目的に行っており、市中の開業歯科医との連携の強化や訪問先の増加、摂食・嚥下障害者に対するリハビリテーションなど、今後さらなる活動の展開を目指します。



福岡歯科大学／福岡医療短期大学 公開講座のご案内

平成26年度 福岡歯科大学 公開講座 かた・ひざ・あごの関節を守る —関節の痛みの予防と治療

受講料
無料

一般の方を対象にした公開講座で、どなたでも受講できます。定員120名。受講料は無料です。

日時 平成26年10月4日(土) 13:30～15:50

場所 よみうりプラザ(福岡市中央区赤坂1-16-5 読売新聞西部本社1階)

講演1 かたとひざの痛みの予防

講師:白川 心一郎(福岡歯科大学医科歯科総合病院 整形外科 理学療法士)

講演2 かたとひざの痛みの診断と治療

講師:井上 敏生(福岡歯科大学 総合医学講座 整形外科科学分野 教授)

講演3 顎(がく)関節症の予防と治療

講師:米津 博文(福岡歯科大学 口腔・顎顔面外科学講座 口腔外科学分野 講師)

●申込方法

受講希望日、氏名、年齢、性別、住所、電話番号を明記の上、電話、FAX、E-mailまたはハガキで下記あてにお申込みください。

お申込み頂いた方には、9月中旬に受講票をお送りします。

●申込および問い合わせ先

福岡歯科大学 企画課 〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1

TEL:092-801-0411(内線508) FAX:092-801-3678

E-mail:kikaku@college.fdcnet.ac.jp ホームページ <http://www.fdcnet.ac.jp/>

第14回 平成26年度 福岡医療短期大学 公開講座 認知症を考える …地域で支える認知症ケア「現状と課題」…

受講料
無料

認知症高齢者「1万人行方不明」と、最近マスコミで取り上げられました。他人事では済まされない事態かもしれません。今年度の公開講座では、認知症をテーマに取り上げ、身近な問題として医療・保健・福祉を含んだサポートについて参加者の皆さんと共に考えていきたいと思います。多くの方の参加をお待ちしています。

日時 平成26年10月5日(日) 13:00～16:30

場所 福岡医療短期大学 307教室 **定員** 120名

Part I 基調講演 13:10～14:10

認知症の理解とその対応…家族が認知症になったとき… 越智 須美子氏

Part II シンポジウム 14:30～16:00

「地域で支えるネットワークづくり」

- 地域の取り組み 土井 孝男氏(福岡市認知症介護指導者)
- 行政の取り組み 梅本 政隆氏(大牟田市保健福祉部 長寿社会推進部)
入江 玲子氏(福岡市保健福祉局 高齢社会部 地域包括ケア推進課 認知症介護予防係)
- 歯科医療からの取り組み (演者未定)
- 家族の取り組み 越智 須美子氏

●申込方法

FAXでお申込みください。福岡医療短期大学 公開講座委員会

●申込および問い合わせ先

TEL:092-801-0923(内線151) FAX:092-801-4473

第10回 健康まるごと福岡学園 日時 10月25日(土)・26日(日) 場所 福岡歯科大学

福岡学園では、医療・保健・介護のみではなく、より広い分野での地域貢献を果たすため、「健康まるごと福岡学園」を開催します。

イベント ●田の歯科祭 ●からだの科学展 ●医科ミニ講座 ●歯科無料相談 ●介護無料相談、介護施設見学 ●短大企画

問合せ先 福岡歯科大学 企画課 〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
電話:092-801-0411(内線508) FAX:092-801-3678 E-mail:kikaku@college.fdcnet.ac.jp

盛りだくさんの
内容で皆様のご来場をお待ち
しています。

受講料
無料

第10回 3大学合同シンポジウム

地下鉄七隈沿線の中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学による市民の健康づくりを目指した一般市民公開の「3大学合同シンポジウム」を開催します。

日時 10月26日(日) 13:30～

場所 福岡歯科大学 本館9階 901講義室

テーマ 高齢社会を楽しく生きる秘訣とは

問合せ・申し込み 福岡歯科大学 企画課 電話:092-801-0411(内線508)

本田武司常務理事が 日本ラグビーフットボール協会功労賞を受賞

本田常務理事が、永年にわたるラグビー競技の安全確保への貢献およびマウスガードの採用普及と定着推進への貢献が評価され、平成25年度日本ラグビーフットボール協会の功労賞を受賞しました。4月29日に行なわれた表彰式では、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 森喜朗会長より、賞状と記念品が授与されました。



松本光生名誉教授 春の叙勲受章

平成26年春の叙勲において、福岡歯科大学名誉教授 松本光生先生が、教育研究功労により「瑞宝小紋章」を受章されました。松本光生先生は、福岡歯科大学歯科矯正学教室の初代教授として、教育・研究にあたられる一方、学生部長、附属病院長も歴任され、大学の発展にご尽力いただきました。



新任教員紹介

口腔医療センター

新任 教授 金子 高士



歯周病患者の包括的治療に取り組んできました。自家骨移植、歯周組織再生誘導法やエナメルマトリックスタンパクを応用した再生療法も積極的に取り入れています。これまでの知識・経験を今後の診療・研究・教育に生かしていきたいと思ひます。

〔略歴〕鹿児島大学歯学部卒。長崎大学歯学部歯科保存学第2講座(歯周病学)助手、米国マサチューセッツ大学医学部感染症部門学位取得後研究員、長崎大病院歯周病治療室講師を経て平成26年4月30日福岡歯科大学口腔医療センター教授就任。博士(歯学)。長崎県出身。

総合歯科学分野

新任 准教授 森田 浩光



歯周病口腔医療を含めた有病者および障害者歯科を専門に診療・教育・研究に携わって参りました。一方で、基礎研究は循環薬理学および腫瘍病態生理学を行って参りました。診療・教育および研究において全身の健康に寄与する口腔医療に貢献できるよう努力して参ります。

〔略歴〕九州大学歯学部卒。同大学院歯学研究科博士課程修了。日本学術振興会特別研究員(PD:九州大学大学院医学研究科・米国パーモント大学医学部)。九州大病院助手、助教、診療講師を経て平成26年5月16日福岡歯科大学准教授に就任。博士(歯学)。宮城県出身。

ヤンゴン歯科大学より客員研究員が来学

4月1日、ミャンマーのヤンゴン歯科大学よりKhin Sandar Tun(キン・サンダー・ツン)先生が口腔腫瘍学分野(大関悟教授)の客員研究員として来学されました。サンダー先生はヤンゴン歯科大学口腔顎顔面外科学の講師で、大関教授がミャンマーで行ってきた口唇・口蓋裂手術などの医療援助活動と一緒に携わってこられ、福岡歯科大学とヤンゴン歯科大学の姉妹校交流の一環として今回の来学が実現しました。「日本の病院の施設や設備・システムは素晴らしく、人々もフレンドリーなので楽しんで研修に励むことができています。」と語るサンダー先生。これから来年3月までの1年間、口腔癌や外科矯正手術、顔面外傷などの診察や治療の臨床研修と口腔癌の研究を行います。



福岡歯科大学特待生

福岡歯科大学の平成26年度特待生に次の12名が選ばれました。特待生は、平成25年度の学業成績(第1学年は入学時)が特に優秀で、品行方正かつ健康な学生が選ばれ、その年度の授業料の半額が免除されます。

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
城所 愛美	高橋 沙希	白重 良	南館 崇夫	新郷 雅史	赤木 裕美
川越 智洋	田中 聡一郎	小嶺 文誉	三原 朋之	安田 梨沙	中嶋 宏樹

福岡医療短期大学特別奨学生

福岡医療短期大学の平成26年度特別奨学生に次の7名が選ばれました。特別奨学生はその年度の授業料の半額が免除されます。

歯科衛生学科2年次			歯科衛生学科3年次			保健福祉学科2年次
住永 梨乃	生嶋 絹代	甲斐 千晶	坂井 亜紀子	増岡 睦恵	松本 萌	前田 富美代

福岡歯科大学一般入学試験 A日程特待生・同特待生継続者

一般入学試験A日程特待生に次の学生が選ばれました。平成26年度一般入学試験A日程における成績が特に優秀であり品行方正かつ健康な入学生に与えられ、年間授業料が約246万円免除されます。

第1学年	第2学年	第3学年
江崎 真奈美	福山 絢子	藤原 聖大
また、過年度に一般入学試験A日程特待生として入学し、平成25年度の学業成績が特に優秀であり、継続基準を満たした次の2名は、昨年に引き続き、第3学年は年間授業料約296万円、第2学年は年間授業料約246万円が免除されます。		
筑紫 可奈子	樋口 いつほ	

福岡歯科大学AO入試 学術奨励金継続支給者

平成25年度の学業成績が特に優秀で、AO入学試験学術奨励金(年間120万円)の継続基準を満たしていたため、引き続き同奨励金が授与されます。

第5学年
後藤 碧

オープンキャンパス 同窓生オープンキャンパスを開催

6月1日、福岡歯科大学の同窓生の子弟を対象としたオープンキャンパスを開催しました。受験生をはじめ、歯学に興味を持つ高校1、2年生も多数参加し、盛況のうちに終了しました。参加者からは、在校生との対談や実習を通じて授業の雰囲気や体験する事で、歯科大学がより身近なものに感じられたと喜びの声をいただきました。



ご案内 平成26年度父兄後援会支部懇談会開催日程

平成26年度の父兄後援会支部懇談会が下記日程のとおり開催されます。各支部の総会のほか、大学からの近況報告や父兄との個別面談、意見交換などが行われます。是非ご参加ください。詳細については各支部へお問い合わせください。

実施日	開催支部	会場名
8月2日(土)	福岡県中央	福岡ガーデンパレス(福岡市)
	近畿・中部・東海	大阪ガーデンパレス(大阪市)
8月3日(日)	福岡市	福岡ガーデンパレス(福岡市)
	大分県	レムブランドホテル大分(大分市)
	広島県	リーガロイヤルホテル広島(広島市)
	山陰	
岡山県		
8月10日(日)	福岡県南部	ハynesホテル久留米(久留米市)
	北九州	リーガロイヤルホテル小倉(北九州市)
	宮崎県	宮崎観光ホテル(宮崎市)
8月16日(土)	沖縄県	沖縄ナハナホテル(沖縄市)
8月17日(日)	福岡県東部	のがみプレジデントホテル(飯塚市)
8月23日(土)	佐賀県	マリピア(佐賀市)
	熊本県	ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ(熊本市)
	四国	松山全日空ホテル(松山市)
	長崎県	ホテルニュー長崎(長崎市)
8月24日(日)	鹿児島県	鹿児島東急イン(鹿児島市)
	山口県	山口グランドホテル(山口市)
	関東・東日本・中部・東海	マンダリンオリエンタルホテル(日本橋)

激励会 第6学年激励会

5月1日、学生食堂において、口腔歯学部第6学年の激励会が執り行われました。田中理事長による激励の言葉に続いて、北村大学長、中村重雄父兄後援会副会長、岩本憲明同窓会副会長から応援メッセージを頂きました。また、今春に歯科医師国家試験に合格した先輩3名より、合格に向けて実践的なアドバイスがありました。学生を代表して大関博通さんがお礼の言葉を述べ、6年生は国家試験に向けて決意を新たにしました。



体育祭 第17回学園体育祭

第17回福岡学園体育祭が、5月23日に開催され、福岡歯科大学および福岡医療短期大学の学生が参加しました。今年は快晴の下、リレー・サッカー・玉入れ・バレーボール・バスケットボール等の各競技が行われ、熱戦を繰り広げる選手たちに盛んな声援が送られていました。



運動会 第12回サンシャインシティ運動会

6月22日、介護老人保健施設サンシャインシティ1階デイケア・リハビリフロアにて第12回運動会が開催されました。この運動会は入所者の日頃のリハビリの成果を活かし、競技を通じて入所者とその家族、職員が共に楽しく汗を流し交流を深めること、また、施設看護・介護について理解を深めて頂くことを目的として毎年行っています。今年は借り物競争や綱引き、玉入れなどの競技が行われ、楽しいひと時を過ごしました。



New Sophiaコラム「水の如し」

「地方消滅と地方分権」

明治の元勳はもとはといえば薩長の田舎侍です。今の鹿児島や山口にそれほど優秀な人材がいたのでしょうか。そんなことはないでしょう。あなたの周囲の鹿児島県人や山口県人を見ればわかります。おそらく彼らは極く普通の能力の人々だったと思います。普通の田舎者でも時流に乗れば元勳になり得るということです。山県有朋などその典型でしょう。しかしその一方で時流に乗れば元勳に

なり得る多彩な人材が地方地方にいたのも事実だと思います。江戸の旗本は使い物にならなかったのは有名な話です。明治以後の日本の発展の礎は幕藩体制にあり、江戸一極集中ではなく、地方(藩)に人材が万遍なく存在したからではなかったでしょうか。山に囲まれたちっぽけな日向飢肥藩から日露戦争時の日本外交史上最も有能な外務大臣小村寿太郎が生まれています。国東

半島の山奥で自然の摂理について考究しカントを思わせる哲学大系を著した豊後の三浦梅園、あの生倣岸な越後長岡藩の河井継之助が別れ際に土下座までして尊崇した備中の山田方谷などもその例です。数十年後、地方の大部分の都市が消滅し東京一極集中となる予測がありますが、もう一度幕藩体制を布いて地方に若者を残す政策が必要ではないのでしょうか。

一地域の障害者歯科から

久保田 智彦（11期生）／社会福祉法人若楠療育医療センター若楠療育園 歯科（佐賀県鳥栖市）

試行錯誤の毎日です。

こんにちは。11期生の久保田智彦です。卒業して歯科麻酔学に入局、

その後に関業医に勤務。再び大学に戻り高齢障害者歯科学、障害者歯科学に所属し、いろいろな経験、認定医や指導医を取得しました。その間、熊本県山鹿市や佐賀県唐津市の同窓の医院で、地域歯科医療の楽しさ、難しさを教えていただきました。そして、今までの経験を地域歯科医療に返そうと、現在は佐賀県鳥栖市の障害者施設内の歯科に勤務しております。

勤務している施設は、県東部の障害者医療と福祉の中心となることを目標にしています。4月に児童発達支援センター



が新設され、外来専用の歯科診療室が増設されました。もともと重度心身障害児者の入所施設でしたが、80歳を超える方もおり、社会の実情と同じく障害者も高齢化が進んでいます。また、小児科外来も併設されているので、身体障害のほかに、知的障害、自閉症などの発達障害を有した低年齢から高齢の障害者の歯科診療を行っています。

最近では全身麻酔を行って歯科治療をしても、口腔内の清掃等が不十分であると再発や新たな疾患が発生したり、歯科だけでは成り立たない障害者歯科の難しさを改めて実感しています。障害者歯科は治療自体も大変ですが、治療後のフォローアップが重要で、歯科疾患の予防・再発には、医師やリハビリスタッフ、福祉担当、そして患者本人や家族を含めたチームを超えたシステムが必要です。これからもスタッフとともに日々研鑽し、障害者との関わりを楽しみたいと思います。みなさんも障害者歯科、いかがでしょうか？

最後になりましたが、佐賀県の同窓の先生や歯科医師会にはいつもサポートしていただいております。

一初心を忘れずに

積み重ねが大事

皆様、こんにちは。29期生の小篠政之です。福岡歯科大学を卒業後、同大学の口腔治療学講座に入局し、歯内歯周病治療を中心に学び、同時に3年間お世話になった大牟田のアルバイト先でGPとしての姿勢を指導していただきました。6年目からは、先輩の紹介で福岡市中央区天神の開業医に勤務し、今年で3年目を迎えました。

現在の医院に勤務しての初年度は、限られた診療時間内での患者養育や治療に奔走するばかりでしたが、院長先生の協力のもと、当初の目標でした歯周病認定医の資格を取得でき、それ



小篠 政之（29期生）／持山歯科医院（福岡市中央区）

れがモチベーションとなりました。徐々にはですが、患者さんとも信頼関係ができ、自分の診療にもある程度の自信がつき、そろそろ開業を意識し始めた頃、院長先生からある勉強会に参加しないかと勧められました。その勉強会のオプザーバーを務める先生方は、普段一緒にお酒を飲む数学年上の先輩ばかりだったため、割と気楽な気持ちでした。ところが、いざ勉強会が始まってその先輩方の治療ケースを見ると、高度な技術もさることながら、それを可能にした知識と基本治療の完成度に衝撃を受けました。

これから何十年と歯科医師を続けて行くうえで、新しい技術等ばかりに目を向けるだけではなく、幅広い視野から診査をし、しっかりとした知識で診断を行い、一つひとつ丁寧な治療を積み重ねることが大事なのだ、改めて気付くことができました。きっかけを頂いた院長先生に感謝をし、これからも初心を忘れずに頑張っていこうと思います。



FROM STUDENTS

合縁奇縁



田崎 園子 (大学院1年)

卒業して約1年半、障害者歯科学分野での研修終了後、大学院に進学しました。今回「学生からのメッセージ」を書かせていただく事になり、何か役に立つ事が書けるだろうかと考えてみましたが、大学院生活についてはたぶん色々な人が言っているのだと思い、それ以外の事について考えてみる事にしました。

数年前の学部生時代を振り返ると、私はかなり変な存在だったのではないかと思います。そんな私にとって、6年間の大学生活の中で何が一番の助けになったかという、たぶん交友関係に恵まれたことなのではないかと考えています。柔道部とDTP部という個性豊かな二つの部を兼部したおかげか、ただ単に類が友を呼んだのか、勉強に関しては喧嘩腰で言い争ってくれる良い友人や、目標になる立派な先輩に恵まれました。実際、障害者歯科を専攻しようと思ったのも、小島教授に指導を受けたかったというのももちろんありますが、部活OBの先生方が障害者歯科に所属していた縁で以前から医局にお邪魔させていただいていた事も大きな要因でした。今でも大学内で疲れてフラフラしている時などに、先輩や先生、後輩、職員の方などに声をかけてもらえると嬉しくて元気になります。そして顔見知りの後輩が多くなると「ちゃんとしなければ」という気持ちも少しは出てきて、真面目を心がけるようにもなりました。

私の大学院生活はまだまだ続くでしょうし、知り合いもまだ少しは増えるかもしれません。もし大学内で男勝りな女性歯科医師をみかけたら、気軽にお声をかけていただけたら嬉しいです。



しかい(司会)のできるしかい(歯科医)になる!笑

佐藤 綾子 (大学3年)



私が所属している放送部は、ひょんなきっかけから始まりました。入学してすぐに同級生と放送についての話が広がり、一年生という立場でしたが、二人で学務課に乗り込んで「学校で何か放送をする機会があったらさせてもらえませんか」とお願いをしました。最初は、案の定困った顔をされましたが、放送部設立に向けていろいろなアドバイスをいただきました。そこから放送部誕生への道のりが始まります。

これまでに、入学式の部活紹介、体育祭、学園祭の放送や賀茂駅のマナーアップキャンペーン、オープンキャンパスなどの様々な活動してきました。それら一つひとつで多くの人との出会いがあり、先輩、後輩、先生、地域の方々など様々なつながりをそれらの出会いは強く感じさせてくれました。それと同時に色々な行事の放送を通して、皆で一つのものを創る楽しさを知り、改めて放送という立場で私も力になりたいと思うようになりました。

そしてつい今年度から正式に「放送部」として認められます。今はまだ任された仕事を精一杯努めている状態ですが、これからは、自分たち発信で学内外の皆さんと一緒に活動していける企画を提案していきたいです。そして、放送部の役目であるはっきりとした口調で正確に情報を伝えることを心がけながら、歯科医師になるための糧としてこの力をさらに伸ばしていくことが目標です。今私にできること、今しかできないことを探しながら活動する中で、放送部のことをもっと知ってもらえたらと思います。



FROM PARENTS

親父の独り言

私が投稿させていただくのは、今回が2回目です。長男(30期生)がお世話になり、現在三男(6年生)がお世話になっています。長男に続いて父兄後援会のお世話をさせていただき、今回は理事まで拝命し、身の引き締まる思いです。

二人はサッカー部で共にキャプテンを務め、共通の目標に向かってクラブをまとめるという、大変だっただろうけど貴重な経験を積んだことと思います。クラブ活動を通して培った挨拶の大切さ、先輩後輩の絆、体力や頑張りが将来きっと役に立つものと確信しています。私自身はバレー部で、今年定年退職された病態構造学分野の谷口邦久先生のような名セッターを目標に練習に励みました。実際は「歯学部バレー学科宴会専攻」の6年間を過ごしましたが…。おかげ様で第3学年から第6学年の卒業式まで学年総代を務めさせていただきました。三男はサッカー・ラグビー兼部だそうです。先日も勉強会で「先生の息子さん、試合で2トライを上げていましたよ。」なんて声をかけられました。年末ぎりぎりまで歯学体のラグビーに参加、帰省もそこそこ年に始めすぐに帰って試験勉強…。親バカですが彼なりに頑張っているみたいです。

ここで、歯科医師34年目の先輩として、若い皆さんに伝えたいことがいくつかあります。1つ目は、歯科医師として大切なことはまず健康、続いてほぼ同列に知力、徳力、学力だと思います。2つ目は、学生の試験には範囲があっても実社会に出たからはこまでいい、という範囲はありません。不断の自己研鑽を行う姿勢、習慣を今からしっかりと身につけて下さい。3つ目は、いい経験を、いい友達をたくさん作り、人間としても成長し、歯科医師として大きく羽ばたく準備を、学生時代からして下さい。

三宅 正輝 様
(父兄後援会理事)

充実した学生生活を

2年前、オールデンタルの野球大会の応援に行きました。福岡開催だったので、1回戦と準決勝は何とか時間を作って駆けつけました。選手達は苦戦しながらも勝ち進み、決勝相手は東京歯科大学となりました。さすがに診療は休めず、家内にビデオ撮影をお願いして結果を待つことになりました。実は、私は出身大学、競技も違いますが、学生時代に決勝で東京歯科大学に負けて悔しい思いをしたことがあります。決勝の結果は知りながらもビデオを見て、優勝の瞬間、選手、マネージャーみんながマウンドに集まって喜び合っている姿に、思わず涙が出てきました。

今は国家試験も厳しく、クラブの活動に力を入れることは難しいかもしれませんが、目標に向かって部員全員で頑張ることは、その後の大きな自信になると思います。同じ歯科医師という仕事につくことで、クラブでの縦の繋がりは、今後大切になってきます。OBの先生、先輩方との付き合いの中で、社会に出てからの人への接し方を身に付けていけるでしょう。幹部学年になれば、クラブ全体をまとめる苦労も経験するでしょう。

クラブを例に挙げましたが、学生時代の今しかできないこと、何か打ち込めるもの見つけて充実した生活を送ってほしいと思います。歯科医師は患者さん、スタッフらと大変コミュニケーションを取らないといけない仕事です。様々な人と接し、人間の幅を広げて欲しいと思います。

そして、「やるときはやるで」メリハリをつけて勉強し、最後に国家試験は学年全員でタッグを組んで合格目指して頑張ってください。

佐藤 義輝 様
(父兄後援会理事・評議員)

平成27年度 入学試験日程

福岡歯科大学

口腔歯学部								
区分	AO入試Ⅰ期	推薦・指定校推薦入試	一般入試A日程	センター試験利用入試Ⅰ期	一般入試B日程	センター試験利用入試Ⅱ期	AO入試Ⅱ期	学士等編入学試験
募集人員	約17名	約15名	約47名	約5名	約10名	約2名	若干名	若干名
願書受付期間	H26.8.4(月)～9.5(金)	H26.10.20(月)～11.7(金)	H27.1.5(月)～1.30(金)		H27.2.2(月)～3.5(木)		H27.3.2(月)～3.20(金)	H26.10.27(月)～11.27(木)
試験日	H26.9.7(日)	H26.11.8(土)	H27.2.2(月)		H27.3.6(金)		H27.3.23(月)	H26.12.1(月)
合格発表日	1次 H26.9.9(火) 2次 H26.10.1(水)	H26.11.12(水)	H27.2.4(水)午後5時		H27.3.10(火)午後5時		H27.3.24(火)	H26.12.3(水)
試験会場	福岡歯科大学試験場		福岡歯科大学試験場 及び東京試験場		福岡歯科大学試験場			
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp ●E-mail gakumu@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/colhp						 ▲携帯電話からのアクセスはこちらから!	

福岡医療短期大学

歯科衛生学科									専攻科・口腔保健衛生学専攻		
区分	指定校推薦入試	公募推薦入試(I)	公募推薦入試(II)	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	AO入試(社会人含む)	一次募集	二次募集	三次募集
募集人員	約10名	約10名	約5名	約15名	約5名	若干名	若干名	約35名	約15名	約5名	若干名
願書受付期間	H26.10.1(水)～16(木)	H26.11.7(金)～20(木)	H26.12.8(月)～11(木)	H27.1.5(月)～28(水)	H27.2.2(月)～9(月)	H27.2.16(月)～3.4(水)	H27.3.9(月)～23(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。	H26.12.8(月)～11(木)	H27.1.5(月)～28(水)	H27.3.9(月)～23(月)
試験日	H26.10.18(土)	H26.11.22(土)	H26.12.13(土)	H27.2.1(日)	H27.2.12(木)	H27.3.6(金)	H27.3.25(水)		H26.12.13(土)	H27.2.1(日)	H27.3.25(水)
合格発表日	H26.10.23(木)	H26.11.27(木)	H26.12.18(木)	H27.2.5(木)	H27.2.19(木)	H27.3.12(木)	H27.3.26(木)		H26.12.18(木)	H27.2.5(木)	H27.3.26(木)
試験会場	福岡医療短期大学						福岡医療短期大学				

保健福祉学科								
区分	指定校推薦入試	公募推薦入試(I)	公募推薦入試(II)	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	AO入試(社会人含む)
募集人員	約10名	約5名	約5名	約5名	若干名	若干名	若干名	約15名
願書受付期間	H26.10.1(水)～16(木)	H26.11.7(金)～20(木)	H26.12.8(月)～11(木)	H27.1.5(月)～28(水)	H27.2.2(月)～9(月)	H27.2.16(月)～3.4(水)	H27.3.9(月)～23(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。
試験日	H26.10.18(土)	H26.11.22(土)	H26.12.13(土)	H27.2.1(日)	H27.2.12(木)	H27.3.6(金)	H27.3.25(水)	
合格発表日	H26.10.23(木)	H26.11.27(木)	H26.12.18(木)	H27.2.5(木)	H27.2.19(木)	H27.3.12(木)	H27.3.26(木)	
試験会場	福岡医療短期大学							
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡医療短期大学入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/ ●E-mail gakumuj@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp						 ▲携帯電話からのアクセスはこちらから!	

キャンパス歳時記

ガーデン研修会

5月22日に開催された評議員会、理事会終了後、学園理事、監事、評議員との親睦を図る「ガーデン研修会」が開催されました。学生食堂及び本館南側庭園で開かれた研修会には多くの教職員が参加し、準備されたベーコンや焼きそば、豚汁などに舌鼓をうちながら、学園役員等との懇親を深めました。



編集後記

近ごろ大学生に対して「量産型」という表現を使うのをご存じでしょうか?大学生は無個性で外見も似たり寄ったりという意味のようです。でもこれは誤解でしょう。実際の大学生は実に個性豊かです。過した高校時代も様々ですし、他学部卒だったり就労経験があったりする学生さんもここで学んでいます。そういう若者の期待に応えられる教育をする、同時に個々の個性までお伝えできる紙面作りをする、というのを目指していきます。

オープンキャンパス開催のお知らせ

福岡歯科大学・福岡医療短期大学
平成26年度オープンキャンパス情報

本学の入学希望者をはじめ、そのご家族などを対象としたオープンキャンパスを下記の日程で開催いたします。各大学の入試係までお問い合わせの上、お気軽にご参加ください。

詳しくは
ホームページで
公開中!

福岡歯科大学

第1回 7月26日(土) 10:00～15:00

〈内容〉模擬講義、模擬実習、施設見学、
在学生との座談会など
歯学教育に興味のある小中学生から保護者まで、
幅広く皆様のご参加をお待ちしております。

第2回 8月2日(土) 11:00～15:00

〈内容〉
模擬実習、
小論文・面接概要説明、
施設見学、
在学生との座談会など

本学の受験を
考えられている方は必見です。



メールでの
お申込みはこちら



模擬実習



施設見学

福岡医療短期大学

実施日 開催時間/13:30～16:00

7月25日(金)
8月 2日(土)・8日(金)・22日(金)
9月13日(土)・27日(土)
10月18日(土)
11月22日(土)
12月13日(土)

内容

- ◎施設見学
- ◎カリキュラム説明
- ◎在学生の声紹介
- ◎入学試験説明



メールでの
お申込みはこちら



歯科衛生学科体験中



保健福祉学科施設見学中